

平成17年度 東京都多摩地域公立図書館大会開催要項

『新たな図書館サービスの担い手として』
～「図書館の「いま」と今後への期待」～

- 1 趣 旨 近年、資料費の削減、新たなサービス要求、民間委託・指定管理者制度など、公立図書館を取り巻く環境が激変している状況にあって、地域の各図書館や市民が、相互に連携し、協力し合うことの必要性はますます高まっています。
平成17年、東京都公立図書館長協議会が解散し、職員研究大会の中止が決定しました。今後とも、その役割を引き継ぎ、職員同士が日常的に情報交換できる場として、また、市民を交えた共同作業・共同研究の場を提供し、日々の図書館活動に活かせる組織作りのため、多摩地域公立図書館大会を開催します。
- 2 主 催 東京都市町村立図書館長協議会
- 3 会 期 平成18年2月2日(木)・22日(水)・23日(木)
- 4 会 場 小平市中央図書館、調布市市民プラザ あくろすホール
- 5 日 程

	9:30	10:00	12:00	13:00	16:30
第1日 2/2 (木)		分科会1：地域資料 「三多摩の地域資料を考える」 基調講演 「公立図書館改革と地域資料サービスの今後」 東京大学大学院教育学研究科教授 根本 彰氏 会場：小平市中央図書館	休憩	報告 三多摩地域資料研究会30周年、業務実態調査報告書作成報告 『多摩地区公立図書館地域資料業務実態調査報告書』について パネルディスカッション 「30年の歩みを振り返り、今後を展望する」 会場：小平市中央図書館	

	9:15	9:45	10:00	12:00	13:00	16:00
第2日 2/22 (水)	開 会 式	受付	基調講演 「図書館 ^{SIN} 時代を迎えて ：図書館がこの国の未来を拓く」 元富士市立西図書館長 山本宣親氏 会場：あくろすホール	資料 展 示 (調大活字)	分科会2：レファレンスサービス 「公共図書館における レファレンスサービスの技術を考える」 会場：あくろすホール第1 分科会3：障害者サービス 「多摩地域の障害者サービスを考える～ 実践報告事例から学ぶ障害者サービス」 会場：あくろすホール第2	
第3日 2/23 (木)			分科会4：館長協議会 「多摩地域の共同利用図書館の 設置に向けて」 除籍資料再活用プロジェクト報告 パネルディスカッション 「多摩地域の資料保存と共同利用を考える」 会場：あくろすホール	資料 展 示 (調大活字)	分科会5：児童サービス 「『子ども読書活動推進計画』から 児童サービスを考える」 会場：あくろすホール第1 分科会6：貸出サービス 「相互貸借Web予約について」 会場：あくろすホール第2	

- 6 参加者 公立図書館職員、市民
(なお、図書館協議会委員、住民の方等で参加希望がある場合は、各図書館で希望者をとりまとめてください。)
- 7 申込み 所定の申込書に記入の上、大会事務局へメールにてお申込みください。

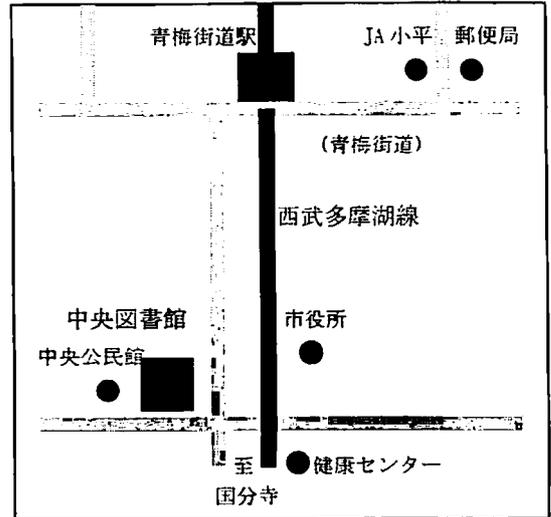
- 8 問い合わせ 平成17年度東京都多摩地域公立図書館大会実行委員会事務局
 武蔵野市立中央図書館 (担当:丸本)
 TEL: 0422-51-5145
 FAX: 0422-51-9317
 E-mail: LB-CHUUOU@city.musashino.lg.jp

〈会場案内〉

第1日 (2/2)

: 小平市中央図書館
 住所: 小平市小川町2-1325
 TEL: 042-345-1246
 HPアドレス: <http://library.kodaira.ed.jp/>

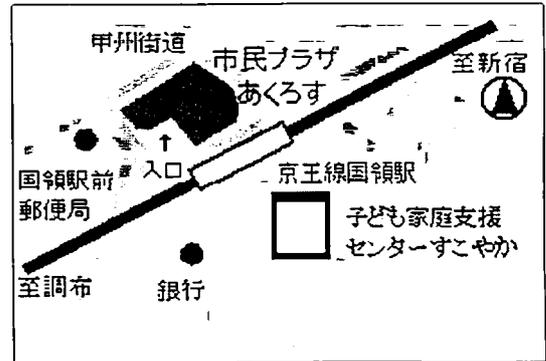
* 西武多摩湖線青梅街道駅徒歩5分



第2、3日 (2/22、23)

: 調布市市民プラザあくろす
 住所: 調布市国領町2-5-15
 TEL: 0424-43-1211
 HPアドレス: <http://www.choufu-across.jp/>

* 国領駅北口徒歩1分



東京都多摩地域公立図書館大会 基調講演

『図書館^{SIN}時代を迎えて: 図書館がこの国の未来を拓く』

元富士市立西図書館長 山本 宣親 氏

日時 平成18年2月22日(水) 午前10時
 *午前9時15分~ 受付 9時45分 大会開会式
 会場 調布市市民プラザ あくろすホール (定員 100名)

山本 宣親 (やまもと のぶちか) 氏

富士市の一般事務職員から図書館に異動。新中央図書館の準備・計画・建設・開館を担当。2004年富士市立西図書館長を最後に退職。現在も講演・研修活動を行ない、ボランティアとして出前ストーリーテリングを語っている。日本図書館協会臨時委員。同特別検討チームメンバー。静岡文化芸術大学・常葉学園大学非常勤講師。静岡県図書館情報学教育研究会理事。

著書:『図書館づくり奮戦記』(日外アソシエーツ)、共著:『図書館森時代!』(日本地域社会研究所)、『新現代図書館学講座3 図書館経営論』(東京書籍)他

東京都多摩地域公立図書館大会

大会第1日(2/2) 10:00~16:30 小平市立中央図書館(定員 80名)

分科会1 地域資料

1 テーマ

『三多摩の地域資料を考える』

地域資料サービスの向上のためには、過去を知り、現状を把握し、未来への展望を持つことが必要です。この分科会では、講演と業務実態調査報告とパネルディスカッションによって地域資料の現在・過去・未来を鳥瞰します。

2 内容

開場 9:30

(1) 基調講演(10:00~12:00)

三多摩地域資料研究会30周年記念講演会

「公立図書館改革と地域資料サービスの今後」

東京大学大学院教育学研究科教授 根本 彰氏

根本 彰 氏

三多摩郷土資料研究会(当時)とともに『地域資料入門』(日本図書館協会1999年)の執筆、編集に参加する。

その他著書:『情報基盤としての図書館』、『続・情報基盤としての図書館』、『文献世界の構造』(以上勁草書房)

休憩(12:00~13:00)

(2) 報告(13:00~13:30)

三多摩地域資料研究会30周年、業務実態調査報告書作成報告

『『多摩地区公立図書館地域資料業務実態調査報告書』について』

石野 義史氏(小平市中央図書館)

(3) パネルディスカッション(13:30~16:30)

「30年の歩みを振り返り、今後を展望する」

パネラー	木村 稔 氏(東村山市中央図書館)
	蛭田 廣一氏(小平市中央図書館)
	庄司 明由氏(府中市立中央図書館)
	北沢喜美子氏(昭島市子ども家庭支援センター)
	荒井 敏行氏(国立市公民館)
司 会	森田 秀敏氏(福生市武蔵野台図書館)

分科会2 レファレンスサービス

1 テーマ

『公共図書館におけるレファレンスサービスの技術を考える』

現代、多くの情報が我々の周りを飛び交い、かつその情報に手軽にアクセスできるようになっています。しかし、あまりにも多くの情報が存在するため、必要とする情報を的確に見つけ出すことが、逆に難しくなっています。このような状況の中、利用者が必要とする情報を見つけ出す手助けをするのが図書館のレファレンスサービスであり、今、図書館員のより高度な知識や技術が求められていると言えます。本分科会では、このレファレンスサービスの技術に着目し、図書館の存在意義とサービスの質の向上を考えていきます。

2 内容

(1) 基調講演(13:05~14:25)

「図書館員のレファレンススキルの現状と課題」

青山学院大学文学部教授 小田 光宏氏

小田 光宏氏

『公立図書館におけるレファレンスサービスの実態に関する研究報告書』(2004年度 全国公共図書館協議会)の計画、分析、執筆の取りまとめを行う。国立国会図書館レファレンス事例協同データベース事業のデータ作成・公開に関するガイドライン策定委員であり、集められた事例を評価、研究しながら、レファレンスサービス教育への活用を図っている。

著書:『情報サービス概説』日本図書館協会(編著 1997)『学校図書館メディアの構成』樹村房(編著 2002)『図書館サービス論』日本図書館協会(編著 2005)他

(2) 事例発表

①「レファレンス・カウンターの実践から考えるレファレンススキル」

(14:40~15:10)

鬼倉 祥子氏(多摩市立聖ヶ丘図書館)

②「レファレンスサービスの技術向上に役立つレファレンス記録の書き方」

(15:15~15:45)

齋木 孝夫氏(調布市立中央図書館)

3 今後の活動について(15:45~16:00)

分科会3 障害者サービス

1 テーマ

『多摩地域の障害者サービスを考える
～実践報告事例から学ぶ障害者サービス』

新しい事業計画の立案には、十分な計画とアドバイスが必要であり、よりよいサービスを提供していくためにも、地域の図書館の連携は重要です。本分科会では、他自治体の実践事例に学びながら、横断的な組織作りに向けて検討していきます。

2 内容

(1) 事例発表と討論(13:05～15:35)

- ①「市民ボランティアによる宅配システムの現状」
返田 玲子氏(調布市立中央図書館)
- ②「DAISY図書作成マニュアルその後」
中山 玲子氏(日野市立中央図書館)
- ③「利用者交流会を開催してみた」
中川 恭一氏(西東京市下保谷図書館)
- ④「音訳者グループと図書館職員」
加藤 敏子氏(武蔵野市立中央図書館)
- ⑤「大田区図書館業務委託と障害者サービスの現状と今後」
野本 敏之氏(大田区立下丸子図書館)

3 今後の活動について(15:40～16:00)

多摩地域の障害者サービス担当職員で構成する、障害者サービス担当者会を、館長協議会の下部組織に位置付けて、平成18年度に実現するよう提案します。
みなさんのご意見を会場にお寄せください。

東京都多摩地域公立図書館大会

大会第3日(2/23) 10:00~12:00 あくろすホール(定員 100名)

分科会4:館長協議会

1 テーマ

『多摩地域の共同利用図書館の設置に向けて
～館長協議会除籍資料再活用プロジェクト報告』

平成13年度に館長協議会が保存を決定した、都立図書館の廃棄資料5万冊をめぐる一連の作業を振り返りながら、館長協議会下の除籍資料再活用プロジェクトチームが出した報告書の報告会を行います。あわせて、多摩地域の資料保存と共同利用のプログラム化について討論の輪を広げます。

2 内容

(1) 報告(10:05~10:35)

館長協議会除籍資料再活用プロジェクト報告

町田市5万冊処理ワーキング・グループ報告

斎藤 誠一氏(立川市中央図書館)

(2) パネルディスカッション(10:45~12:00)

「多摩地域の資料保存と共同利用を考える」

パネラー	津野 海太郎氏(和光大学教授)
	沢辺 均氏(ポット出版代表取締役)
	松尾 昇治氏(昭島市民図書館)
司会	堀 渡氏(国分寺市立恋ヶ窪図書館)

【パネラー紹介】

津野 海太郎氏

1938年生まれ。小学生時代、ガリ版による新聞を発行して以来の机上パブリッシャー。出版社での単行本づくりだけでなく、雑誌、ミニコミ誌、DTP新聞などの編集にもたずさわってきた。季刊「本とコンピュータ」編集長。著書に『小さなメディアの必要』『歩く書物』『歩くひとりもの』『本とコンピューター』『本はどのように消えてゆくのか』など。(www.aozora.gr.jp 青空文庫 より)

沢辺 均氏

1956年生まれ。ポット出版代表取締役(www.pot.co.jp)。雑誌『図書館とメディアの本 ず・ぼん』編集長。2000年、版元ドットコム(www.hanmoto.com/)創設。

分科会5 児童サービス

1 テーマ

『「子ども読書活動推進計画」から児童サービスを考える』

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、各自治体では、「子ども読書活動推進計画」の策定、または、策定に向け検討する動きが見られます。

この分科会では、「子ども読書活動推進計画」の策定について、また、計画を展開していく中で行われている児童サービスについて考えていきます。

2 内容

(1) 事例発表(13:05~14:45)

① 「計画の策定とその後の事業」

湯原 直彦氏(八王子市立中央図書館)

② 「公共図書館と学校図書館の資料有効活用を目指して」

鈴木 洋美氏(狛江市立中央図書館)

③ 「よちよちある記 「赤ちゃん絵本文庫」の乳幼児サービス」

尾野三千代氏(府中市立中央図書館)

(2) 討論(15:00~15:30)

3 今後の活動について(15:35~16:00)

各自治体で、児童サービスについて様々な課題・問題があります。同じ担当者として、話し合える場を設定できないかを検討します。

分科会6 貸出サービス

1 テーマ

『相互貸借 WEB 予約について

—住民の資料要求にとことん応える 質量の増大に技術の進化で対応していく—』

近年、区市町村立図書館への資料要求は質量ともに増大しています。多摩地域の市町村立図書館はその草創期から相互貸借システムを発展させてきました。情報化時代を迎え、私たちは、相互貸借の依頼・回答にWEB予約を活用しようという新たなシステム構築に着手しました。

この分科会では、相互貸借 WEB 予約を中心に、求められた資料を草の根分けても探し出す方法についての議論を深めていきたいと考えています。

2 内容

(1) 基調講演(13:05~14:05)

「多摩地域以外の相互貸借 WEB 予約に学ぶ」

鈴木 康嗣氏(江戸川区立中央図書館)

(2) 提案・討論(14:10~14:30)

「多摩地域での相互貸借 WEB 予約について」

蓑田 明子氏(東大和市立中央図書館)

(3) 事例発表(14:45~15:40)

「こうして見つける借用先の裏技」

① 国会図書館総合目録ネットワーク、Jcross 横断検索から県立図書館など
高松 晶司氏(町田市立中央図書館)

② NACSIS-WEBCAT などから大学図書館、専門図書館

笹川 美季氏(府中市立中央図書館)

③ 各自治体の事例から

相川 容子氏(狛江市立中央図書館)

3 今後の活動について(15:45~16:00)

来年度以降の分科会の方向について検討します。